



市長モリテツの ほっとトーク

February 2022

歴史がつなぐ山と海の都市間交流

— 苦難を乗り越えた先人の想いを、未来に活かす —

三田市長 森 哲男

昨年7月1日、三田市と三重県鳥羽市は「友好都市提携10周年」を迎えました。両市は歴史的に深い結びつきを持っていました。

戦国時代、鳥羽城主で九鬼水軍の将として活躍したのが九鬼嘉隆です。江戸時代に子孫たちは家督をめぐる騒動を起し、内陸の摂津三田藩に移封されました。1633年（寛永10年）、嘉隆の孫である久隆を初代藩主に迎え、城下町として発展してきたのが、わがまち三田です。

九鬼氏が治めていた海国鳥羽から山国三田に移り住んで約4百年、両市には九鬼氏にまつわる共通した歴史文化など、深い結びつきがあります。

平成11年頃からその歴史にちなんださまざまな交流が積み重ねられ、平成23年7月1日に「友好都市宣言」が締結されました。宣言後も、多くの交流が展開されていますが、10周年を機に、これまでの交流事業に加え、市民の協力のもと新たな取り組みを行っていきます。

明治初期になると、北海道浦河町との深い結びつきも生まれます。明治13年三田出身

の青年士族が中心となり、北海道開拓会社「赤心社」を設立し、翌14年北海道浦河に開拓団を送ったのが始まりです。北国に理想郷を求めた三田の先人たちの開拓魂は、今も浦河町の人々に語り継がれています。

両市町の交流は近年では、平成16年に「三田市商工会青年部」有志が赤心社の歴史を顧みるため、浦河町を訪問したのを皮切りに、「同商工会」や「NPO法人歴史文化財ネットワークさんだ」が、それぞれ同町を訪問しました。令和元年11月には、浦河町長および浦河商工会議所会頭をはじめとする訪問団が三田市を訪れ、私も親しく懇談させていただきました。

今秋には、三田市教育委員会が、小学3年生用のふるさと読本「(仮称)北の大地に理想郷を築いた人々」鈴木清・澤茂吉」を作成する予定です。

鳥羽市および浦河町との交流をさらに深め、三田の先人たちが苦難を乗り越え、理想を求めてきた歴史を知ること、未来を担う子どもたちに多くの事を学んでほしいと願っています。

Mayor's Photo Diary



12月19日 さんだゼロカーボンシティ推進に向け、クールチョイスの取り組みを企業と共同宣言



1月5日 「新年を寿ぐ会」は2年ぶりの開催。市内の政治・経済・文化関係者らが新春を祝いました



1月9日 郷の音ホールで成人式を2部制で開催。新成人に向けて祝福と激励の言葉を贈りました